

No.463
2022年
5月2日
(月)

つ く し ん ぼ

5月号
(皐月)

風薫る5月

ピカピカの1年生が入学してきて1ヶ月がたとうとしています。学校全体も、新しい出発の喜びに満ちあふれているようです。

ことばの教室の指導も本格的にスタートしました。山々の若葉がぐんぐん伸びていくように、子ども達のこれからの成長を楽しみにしています。

今年度も、いろいろな出合いを大切にしながら、担当者一同がんばっていきたいと思います。

美しい若葉を楽しみながら、通ってきてください。



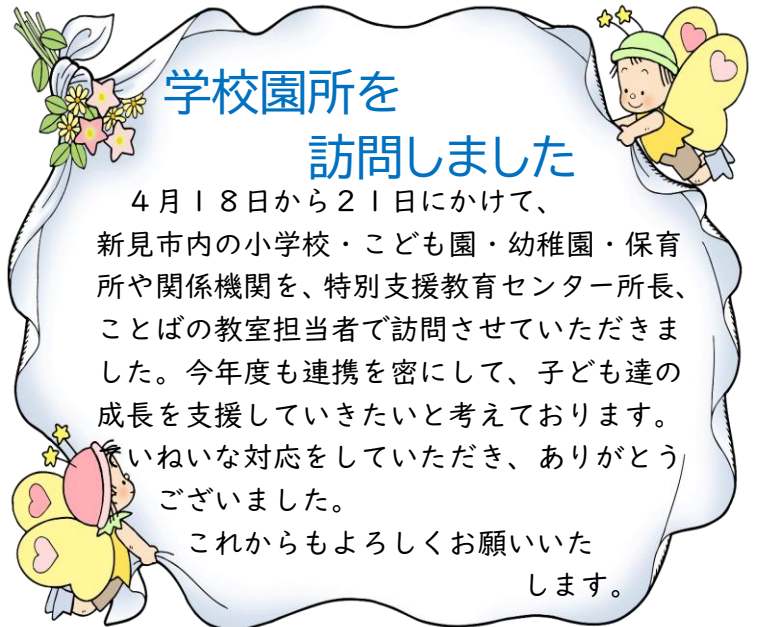
メッセージ

通級を終了したお友達からです。

とても楽しかったことは、カードゲームです。トランプで「ババ抜き」を先生といっしょにしたのが楽しかったです。

言葉がうまく話せるようになったり、話を聞いてもらったりしたのがよかったです。
(1さんより)

チヨウチヨウ まど みちお
ちきゆうには
チヨウチヨウがいます
なんとなくいます
みちばたの ちいさなくまに
ちいさな はなが
匂っている みたいに
ちきゆうには
チヨウチヨウが います
ゆめのよう に いてくれます
ちきゆうの こくに
あたしという おんなのこが
いるから みたいに



学校園所を 訪問しました

4月18日から21日にかけて、新見市内の小学校・こども園・幼稚園・保育所や関係機関を、特別支援教育センター所長、ことばの教室担当者で訪問させていただきました。今年度も連携を密にして、子ども達の成長を支援していきたいと考えております。いねいな対応をしていただき、ありがとうございました。

これからもよろしく願いいたします。

昨年度終わりに、岡山県聴覚・言語・情緒障害教育研究会の研修で、国立特別支援教育総合研究所の牧野泰美先生に、とても心に残るお話を聞きました。その牧野先生が書かれたコラムの一部をご紹介します。

「たとえば花火や七夕飾り、節分の豆まき等々は、『子どもがいるからやっている(やれている)のかな』と、ふと思うことがある。人それぞれだろうが、私などは子どもがいなかったらまずやりそうにない。ということは、私の暮らしは子どもによって潤いのあるものになっているとも考えられる。否、私だけでなく、大人は子ども(我が子という意味だけではない)の存在によって潤いのある日々を送っているのだといってもいいのではないだろうか。▲ところで、たとえばその節分の豆まきで、大人は子どもに対して『その豆のつかみ方はまだ未熟だ』『その豆のまき方(投げ方)はまだ成っていない』等々の見方をするだろうか。多くの人は、そのような見方をする事なく、どんなまき方であろうと、たとえ豆がすぐ足下にこぼれようと、子どもと一緒に楽しく過ごすのではないだろうか。▲教育においては(あるいは日々の子育てにおいても)、できないことや未熟な点が課題とされ、それができるようになる、上達することに価値を置かれることが多い。それはある意味当然のことだろう。でも一方で、大人が子どもの存在に感謝し、子どもに学び、子どもと一緒にいい時間を過ごすこと、それも子どもの成長に大切なんだと思う。」

(NPO 法人三つのいくじの会発行「三つのいくじ新聞」コラム欄「ショートめーる」寄稿原稿抜粋)

子ども達とそうした時間を過ごすことができるといきたいと思います。

